



学校便り 7月号

かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008
発行 令和7年7月15日 責任者 校長 永野 俊也

学校 HP



学校ブログ



里周辺海水温
30℃(7/5)



平成5年8月豪雨、33年前のあの日进行

防災を心に留め、よき夏休みをお過ごしください

校長 永野 俊也

この度の6月24日、里地区を襲った集中豪雨により、被災された皆様、心よりお見舞い申し上げます。

この日私は、「雨が降っているなあ」ぐらいの感じで、12時前には床に就きました。それが、激しい雷鳴と雨音で2時ごろ目が覚めました。その異常さに驚きすぐに携帯で確認をしてみると、**土砂災害警報、里地区避難指示**となっていました。「ピンポイントでその渦中にいる。避難指示といっても、外に出るのも危険、地域の方々は大丈夫だろうか・・・」そんな不安と、「この状況が朝まで続けば、学校を通常登校とするのは危険・・・」そんな事が頭をよぎり、雨雲レーダーで今後の雨量の推移を確認しました。今がピークで、この後雨脚は弱まる。大丈夫か？とこの後、朝まで寝付かれない時間を過ごしました。そして雨が弱くなり明るくなってきた6時ごろ、校区の見回りに出ようとした時、園下に在住の甌島教育課課長より電話があり、園下が冠水している他、情報が入ってきました。そして車で子供たちの通学路の安全確認のため、校区内を巡回、園下地区の水は引いているものの、土砂が堆積し、車の運転を困難にしている状況や、里幼稚園と里保育園の間の田んぼが、一つの大きな池となっている日頃目にしたことのない光景を目の当たりとしました。それでも、通学路の安全は確保できていると判断し、6:40頃教頭に、保護者に安全面の配慮をお願いしつつ、通常登校とする旨の安心メール発信を指示しました。

大雨注意報が、わずか2時間の間に、大雨警報→土砂災害警報・避難指示と一気に進んだ進行速度の速さに驚くとともに、山を隔てた中津地区の降水量はそこまでのないのに、まるで里地区だけを狙ったかのような集中豪雨。こういうことは今後も起こるかもしれない。備えなければと思いました。そして、あの日の記憶がよみがえってきました。

平成5年8月豪雨 一般的には8.6水害で知られていますが、この年は本当に雨と台風の襲来が多い年でした。まず8.1には溝辺町を中心に県中央部各地で死者23名を出す災害となります。九州自動車道及び国道10号は寸断され、桜島SAは土石流に直撃されます。そして8.6鹿児島市を中心とする集中豪雨で甲突川が氾濫。死者行方不明者49名。復旧し唯一の動線となっていた国道10号は各地で土石流が発生し流ヶ水駅付近では、自動車約800台、上下線の列車の乗客と合わせて約2,500名が取り残されてしまいます。この時私は鹿児島市内の紫原に住んでいましたが、夜中の12:00を過ぎ、雨がやみ水が引いた西鹿児島駅まで、膝まで泥につかりながら友人の救出に向かいました。そして災害は9月も続きます。台風13号の襲来は、垂水地区を中心に県内に大きな被害をもたらしました。当時垂水中へフェリーで通勤していた私は、港を埋め尽くした流木により、台風が去ったあと2日通勤できませんでした。錦江湾の養殖生簀も大打撃を受け、莫大な損害をもたらしました。7月中旬に発表されていた梅雨明けは、後に取り消され記録的な冷夏となります。そしてそのことは深刻な米不足を生じさせたのでした。

楽しい夏休みを前に、今月は重たい話題となってしまいました。ただ「備えあれば患いなし」と言います。新燃岳や桜島の噴火に悪石島の地震等、周囲では自然災害が続いています。里周辺の海水温も昨年に比べ1℃高く推移しています。家族で防災意識を高め、どこへいても様々な災害に対し、家族でこう動こう。ということを確認し、思い出深い44日間の夏休みにしていただければと思います。

新学期、元気な姿でここにこと登校する子供たちの姿を楽しみにしています。

ボランティアのお礼

7月14日(月)株式会社ヒラミネ様が、老朽化により倒木の危険があったフェニックス2本(旧飼育舎横と体育館入口横)を伐採してくださいました。災害復旧等御多用の折ではありましたが、伐採していただいたことで、見通し、風通しがよくなりました。
また、何よりも子供たちの安全が確保されました。本当にありがとうございました。



不審者対応訓練

7月1日(火)に、不審者対応訓練を行いました。里駐在さんと幹部派出所の方をお招きして、不審者が学校に侵入したという想定と、下校途中に不審者に遭遇したという想定でそれぞれ訓練を行いました。

どちらの訓練も真剣に行い、命を守る行動をとることの大切さや、日頃から挨拶を行うことで、地域の人と顔見知りになっておくことの大変さなどを学びました。

また、夏休みは御家族で遠方に出られる場合もあると思います。出かけ先でも不審者に会うかもしれません。

御家庭でも、日頃から防犯について話し合っていたいただき、子供110番の家の場所や「いかのおすし」について話題にしていればと思います。

よい夏休みを...



8月行事

- 11日(月) 山の日
- 13日(水) ~ 15日(金) 学校閉庁日
- 20日(水) 玉石アート・ことばの教室(体験教室)
- 21日(木) 出校日
- 31日(日) 奉仕作業

8月13日(水)・14日(木)・15日(金)は、学校閉庁日とし、学校を閉めることとなります。御理解・御協力の程よろしくお願い致します。

大雨想定集団下校訓練

6月14日(土)に、大雨を想定した集団下校訓練を実施しました。

今年度は里でも記録的短時間大雨警報があり、実際に冠水の被害も起きています。登下校時に限らず、大雨の際に自分の身を守ることはこの夏も大切な力となりそうです。

御家庭でも、家の付近の注意が必要な場所や避難先について確認していただければと思います。



今月の付録

かのご百合 の ひみつ

～ 甕島とかのご百合 そして シーボルト事件 との関りとは？



今月は、今まで記事にしていそうで取り上げていなかった「かのご百合」について、スポットを当ててみたいと思います。

左の写真は、松原通りから武家屋敷通りにかけての表通りで、私の見る限り今年1番に咲いた かのご百合 です。塩田酒造前の里小学校園で咲きました。ちょっと低い位置でしたが、気づかれたでしょうか？

甕島の方々には特に、DNAレベルで愛されていると思われる かのご百合。 では、その生態をまず紐解いてみましょう。

学名をLilium speciosum (リリウム スペシオムス)と言います。種形容語のspeciosumとは、「美しい、華やかな」を意味し、和名の かのご (鹿の子) は、赤い斑点が、鹿の子を連想させることが由来と言われます。

今までの赴任先、奄美ではいろいろな所に自生している白くて大きく強い香りを放つ エラブユリ (テップウリ) を目にしました。それに比べると、少し小ぶりな花びらをそらせながら、いかにもつつましやかにお辞儀をしているように下向きに咲く かのご百合。その可愛らしい姿には、誰しも心引かれるのではないのでしょうか。

その生息域は、九州、四国の一部から台湾北部までとなっていますが、自生密度が最も高いとされているのが、甕島です。ですから甕島のシンボルとも言えます。そんな かのご百合 ですが、自生しているものについては、絶滅危惧Ⅱ類として環境省のレッドリストに入っているため、大切に守り育てなければならない種でもあります。

そして かのご百合 は、救荒作物 として甕島島民を救ってきた歴史があります。天明、天保、明治、そして戦後の飢饉では、球根である鱗片が食料となって島民を救ったと記録に残っています。かのご百合はいざという時、自らの命を差し出し、甕島のご先祖様方の命を救ってくれたこととなります。かのご百合の花言葉の一つに「慈悲深さ」があるのは、そういう姿からきているのかもしれませんが。

甕島を、そして日本を代表する百合として、かのご百合が世界的に知られるようになったのは、江戸時代末期になります。当時、長崎の出島にあるオランダ商館付きの医師として赴任していた、ドイツ人の シーボルトは、塾を開き西洋医学を日本に伝えたほか、日本の動植物の採集・記録、民俗の様々な研究を行いました。一説には、医師としての他、諜報員として日本の調査を行っていたのではないとも言われています。

そんな彼が引き起こした事件が、シーボルト事件(1828年)です。当時、国外持ち出しが禁じられていた、伊能図(大日本沿海輿地全図)を持ち出そうとして、国外追放となりました。この事件の余波は大きく、シーボルトが所有する航海記「世界周航記」と伊能図を交換することを条件に、彼に渡した 高橋景保 (幕府の天文方トップで伊能忠敬の先生、高橋至時の息子)は捕らえられて獄死他、この事件の3年前には、異国船打払令 が出されていたから、関連して、この事件から 蛮社の獄 (蘭学者の弾圧事件)が始まったとも言われています。

事件の張本人、シーボルトは没収された伊能図の写し、予備をすっかり持ち帰り、ヨーロッパで発行しています。そして かのご百合 の球根も持ち帰り、そこからヨーロッパで広く知られるようになりました。

彼の著書「日本植物誌」では、彼自身「花の美しさ^{かぐわ}と芳しさからして、これはユリの中で最も素晴らしいものに数えられる」と述べ、この後品種改良の際の原種として重宝されるようになりました。



花束で、よく中心を飾る←カサブランカは、かのご百合にヤマユリをかけ合わせ、さらには純白のタモトユリ、もしくはウケユリを交配させオランダの育種会社が作り出したものです。すべてが日本の品種で、日本の百合の粋が集められているとも言えます。明治維新後、かのご百合の球根は、時に甕島の貴重な収入源として人々の生活を支えてくれました。

これから満開を迎える かのご百合。この光景をいつまでも大切にしたいと思いました。

[おしまい]

— 追 —

先日、薩摩川内市の中央図書館へ資料を探しに訪れた際、なんと、伊能忠敬「大日本沿海輿地全図」写本を発見しました。おそらくこの図書館で一番大きい本です(東日本と西日本2冊分冊で、禁退出です)。さっそく甕島の測量実図を見てみましたが、「ふむ、ふむ、なるほど…」とその測量法を地図から読み解くことができました。中央図書館に立ち寄る機会があれば、ぜひ、ご覧になってみてください。



7月14日里小正門の かのご百合